



認知症まちづくり地域円卓会議 in 北中城・宜野湾

認知症になっても社会のなかで役割が欲しい！
「働くこと」を通して、認知症と地域づくりを考える

実施報告書

- 日時： 2023年9月22日（金）17:30-20:30（受付開始17:00-）
場所： 宜野湾市社会福祉協議会2階（宜野湾市赤道2丁目7-1）
主催： 特定医療法人アガペ会、沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
共催： 宜野湾市
協力： NPO法人まちなか研究所わくわく



報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】認知症まちづくり地域円卓会議 in 北中城・宜野湾



- 日時：2023年9月22日（金）17:30-20:30
- 場所：宜野湾市社会福祉協議会 2階
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 参加者数：47名
（医療・福祉関係、地域包括支援センター、自営業等）
- 主催：特定医療法人アガペ会、
沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、
公益社団法人沖縄県地域振興協会）
- 協力：宜野湾市
- 協力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供 泰 真実 氏（医療法人アガペ会 作業療法士）

認知症になっても社会のなかで役割が欲しい！

「働くこと」を通して、認知症と地域づくりを考える

認知症になったからといって、社会のなかでの様々な役割を奪ってはならない。アガペ会では「遊農くらぶ」という農業リハビリテーションを通し、認知症当事者や支援者など、どんな方でも参加できる居場所づくりを実践しています。人は役割を持つことで、生きがいや幸福感を得ることができます。認知症は進行性の病気です。しかし周りの理解や進行度によって働き方の創意工夫が出来れば、認知症になっても「自分らしく」暮らしつづけることができます。今回の地域円卓会議では「働くこと」を通して、地域づくりについて話合います。

センターメンバー



泰 真実
医療法人アガペ会
作業療法士



涌波 淳子
医療法人アガペ会
理事長



安次富 麻紀
沖縄県
若年性認知症
コーディネーター



田村 浩介
株式会社いきがい
クリエイション
代表取締役



大城 健
北中城村
社会福祉協議会



山城 紀子
ジャーナリスト

139回目

認知症まちづくり 地域円卓会議

in 北中城・宜野湾

2023. 9. 22 (金)
17:30 ~ 20:30
@ 宜野湾市社会福祉協議会 2F

認知症になっても社会のなかで
役割が欲しい！
「働くこと」を通して、認知症と
地域づくりを考える

主催 特定医療法人了がべ会、沖縄認知症見守りコンソーシアム
(公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会)

共催 宜野湾市 協力 HPO法人まちなか研究所わくわく

休職預金と活用は事業の一端 (論点提供)

涌波淳子 泰真実

安次富麻紀 田村浩介

大城健 山城紀子

(同会) 平良斗星

論点提供

やす まこと
泰真実
特定医療法人了がべ会 作業療法士

認知症になっても、社会で
何らかの役割をもつこと大事

できることはある。みつめて、さがして。

- 「働くこと」の意味
 - 何かに従事する
たがさわる
「作業」
- 「予防」と「共生」
- 地域での居場所づくり

台風6号 被害
職員はげまされる

プログラムを準備はきつい
おっしい 孫へ
うれい 朝っる

交流のキカイ/身体 認知
モリカの
16F

コロナ禍でおきたこと

物行率
1年+10%、5年+40%

健常者 → MCI (軽度認知キノウ降が) → 軽度認知症 → 中度 → 重度

回復率 14~44%

- リハビリは回復のプロ
- 進行する中での固執り苦手
- できることとてりあげてしま、ていなか

遊農くらぶ (居場所)

4月スタート フイル 6~7月 収穫
体力測定・心理検査 2~4月

自宅でもできる作業

一緒に学びながら 一まず土づくから

涌波 淳子
 わく なみ あつこ
 特定医療法人 アガペ 理事長

65歳以上 6.4人1人
 認知症 I 以上 53,525人
 65歳以上 8.5人1人
 認知症 II 以上 40,705人
 要介護認定者のうち
 若年性 1,538人

他人ごとではない

R.3 県内バイクの数 59,000台
 支える側の視点だけでなく、
 自分ごととして考えられる
知識 と **意識**

あつ倒
 こつ倒でなく
 ちがみとめ
 ちがみとめ
 共に生きる

安心して
 カミングアウト
 できる
 環境づくり・地域づくり

よりよく生きる

自己実現欲求
 承認欲求
 社会的欲求
 安全欲求
 生理的欲求
 マスローの5段階欲求

仕事役割 → 居場所が
 うまれる

役に立つしゃべりがある
 と生きられる

正常
 ↓
 認知症

欲求のレベルもかわってくる
 できることもかわってくる
 できないこと

認知症基本法が成立 (2023)

何かの役割があると
 働く・表情かわってくる
 全く何もな...人はいない

安次富 麻紀
 あんじとみ まき
 介護福祉士 認知症支援コーディネーター

若年性認知症支援コーディネーター

働く世代の支援

働く 家族
 と支える

65歳未満
 診断を受ける前
 相談を受ける
 医療機関
 上司から

支援 136人
 のべ 2700件/年の対応

情報共有し、つなぐ 旧中電話きねな

事業場における治療と仕事の
 両立支援ガイドライン (R3)

110-ワーク
 も使える

両立支援員
 と連携

福祉的 就労 A型 B型

受入がなかなかあてつかない
 スタッフが、どう対応してよいか分からない

つなぐ前に本人の **トリセツ** 必要
 事業所へ できること 配慮
 できないこと

全て個別支援

若い方だからこそ、**「もっと働きたい」**
 短い期間でもつなぐようにしている
 本人が理解できていると、次のステージ

仕事なくなる と **社会性もなくなる**

企業が 就労 何ができるのか
 コース3,7,7,7,7

障害福祉サービス
 福祉的 就労 (A・B型)

介護保険サービス
 による 就労 最大の
 トリセツ

居場所づくり 社会参加



田村 浩介

株式会社いきがきクリエイション / NPO法人いきがきLABO

「あなたとわたしのカフェ」

A & W

沖縄市美里店で月1回
うるま市あげな店で毎月3回

高齢者住宅

介護保険サービス使っていない 軽度認知症
デイサービスで体を動かしてあげる。

出入り自由 一行不明になることも

「道迷いました」と本人言える
家族会議を重ねて。

皆心た
キネゾカ

「作業的存在」として。

尊厳も

作業をとりもどすこと ⇒ 自分らしさも

とりもどすこと

仕事や役割は 簡単にうばわれる。

よかれと思ってまわりもうばってしまっているのか



大城 健

北中城村社会福祉協議会

ウラカゾク (村家旗) 北中城村

2011年東日本大震災 新地町へ20回
YORISOI隊 手書きで

地域福祉計画

本人の希望
意志

「権利 ようじ」の視点

行政・社協の限界が 支援の限界ではない

地域づくり — 3字モデル展開

「一緒に考え、一緒に活動。」

3がハ合)
8 → 地域へ

14行政区の
地域のおもて
改めてみたり
発信していく

働く

その人にあった場がある



山城 紀子

ジャーナリスト

（私の30年前までタブーだった

とても言えない、かくすもの

「在宅介護者のつどい」 ← コーナーだった

と強いつな印象

語る人もきく人も泣いていた

↓
「ボケた母」取材 (金城+M) 北中城村

10年以上たまたま、民生委員へ相談

単独 ← 老ホーム ← 保健師

事業 1990年に村調査

特別
デイサービス

20名いる。でも金城社の母は入って
いなかった

言いたくなかった。
金城社も意欲的になっていた

娘が引きつけている。→ 記事で出した

私たちはなんて高齢期のこと

知らないんだろう...

これまで常に介ゴする例) から

書籍

どうか私たちをかくすのではなく、

ともに仲間として、

自由

働きたい。 報ステーション

まだめずらしい例なのだろう

社会の理解 / 国民の声

こうした議論が大事

サブセッション

- 自分の子には介ゴさせたくない
- ギャップ
- 自分のトリセツ (終活1-1)
- どこに相談したら
- ヒアリングが当事者同士

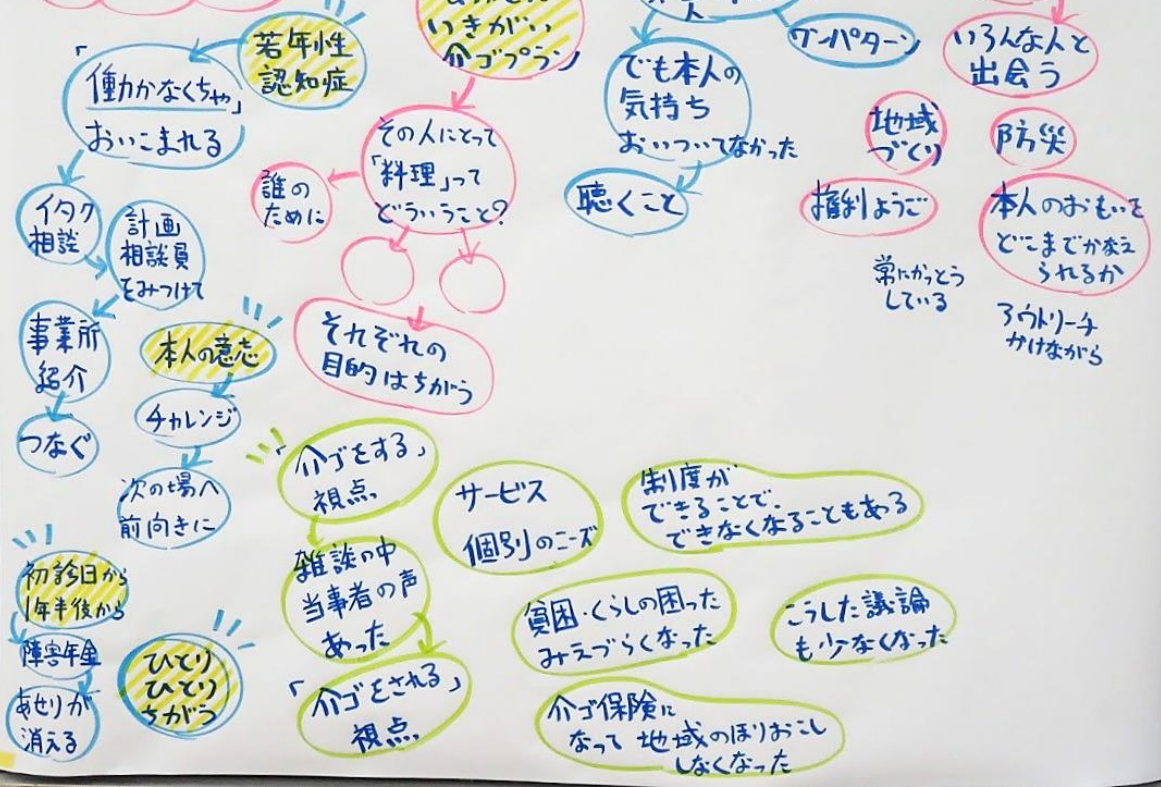
当事者の方
 退院の条件
 デイハ行くこと
 仕事はすでに決っていた。
 仲間だけで
 意見もって
 話し合った。
 働かせられるのは苦痛だった。

商店でものわすれ
 ありながら経営
 家族が、本人の安心
 できる環境
 おつりまちがえる
 (お客さんが伝える
 値段もかわる。けど
 経営してる)

オーストラリア
 「ディーラーワーカー」
 ひてりひてりもデザインする
 資格

自由と尊重
 うばってない

セッション2



やすん

当事者の方の言葉させた
本人ぬきに決めてはいけない

先週. MTG.
うたえうたう.
グループの中の役割の→
認知症になっても.
次の会ぎ→固わり方がわからなから.
だから勉強会しよう.
ハジイてしまうよ. 3人の人の一
話していくこと. いろいろしていく
決めつけない.

斗星

本人の意見を聴くこと
人知れず. うばっている.

「できること」と「生きがい」は異なることも

モデルに皆の人生のデザインできること.

モデルになる

社協→制度化によって. 失ったちえがある.
そこが社協やるところでは.

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 認知症の診断を受け、守る側と守られる側の境界線が引かれると、守る側が意図せずとも、当事者の何かを「奪っている」かもしれないという意識を持ちながら、認知症の方本人の意見を聞くということを大事にしていく。
- 人は、作業をすることによって自分自身がどのような存在かが決まるという定義にもあるように、作業を伴う場を奪うことが尊厳を奪い、社会性を奪っていくことに目を向けよう。
- 認知症に関わらず、当事者に向き合いその人にあった人生プランを考え修正していく「人生デザイン」を、万人が受けられるサービスにしていくと、誰もが生きやすい社会になる。
- 介護保険等の制度ができたことにより失われた、地域の知恵やニーズの発掘機能など、社協として新たな取り組みができないか、考えていく。

■参加者によるサブセッション

認知症になっても社会のなかで役割が欲しい！ 「働くこと」を通して、認知症と地域づくりを考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

「働く」ことを通して認知症と地域づくり
「働く」＝やりがい、いきがい
「認知症」認知症カフェ ×遊び ○役割
ゆんたく Bar

②

・職場で認知症の方をまじえて勉強会を行った際に「行動を制限されたくない」との意見があった。→働ける方であったので清掃とか役割を提供した。
・患者様で歩ける認知症の方のトリセツ→患者様ケアがスムーズに行えるトリセツを作った。それをみんなで作る雰囲気になかった。でもそれは患者様を知る上では大切なこと。
・通所では認知症の方が少ないイメージだった。業ム後に勉強会を行っていた。利用者さんにレクの準備や道具作りを行って頂いたことが仕事になった。畑を患者様と行って職員食べ感想を伝えていた。
・回復期病院など、MCIの方や高次脳機能障害の方の役割や仕事を支援したい時に運転や仕事を再開したい時にどこと連携したり相談するのか分からなかった。→その勉強会等があったら参加してみたい。

③

沖縄 貧困→働く必要
感情的、とまどい→行動理由わかれば優しくなれる
オープンダイアログ
本人が決める、失敗しても大丈夫
本人中心で話す

④

らくのうくらぶ 遊農クラブ
地域の中に居場所があっていいなあー
カフェと働く場所、予防のためにも
→続けやすい(農業より)
女性は集まりやすい(カフェ) 男性はちょっと
人と関わるのが頭を使うので
・コロナで受け入れ× 引きこもり
①認知症レベル 歩ける シャガめる 両方の
うで
②できること やれること マッチング
農業だけじゃなく(全部ができるわけじゃない)
役割があると良い時間過ごせる
働くことは自分の存在いき
高れいご家族の負担けいげん
本人が能力いじのために使いたい

⑤

・デイサービスなどでも仕事とか役割があったらいいな！！
・地域づくり
一個人として参加が行いにくくなっている！！
介ゴ保険のサービスに行く事で孤立をする事も、
・地域の中でのコミュニティー
マッチングの〇〇して！！
・古い地域は隣の方々が助け合うが新興地域ではむずかしい

⑥

「働かせられるのは苦痛だった」
「自分の意見もきいてほしい」

⑦

「働くこと」

生産性、役割いろんな働く

集まって何かを作る、テーマ大きい

できるところからできなくなる経過

クオリティーを求められる、自由度(時間など)

が少ない。

自分の事として考える、働くを考える、国際協力、何が出来るか?

地域や人の関わり、お互いを知ること、以外とない、コロナで切断→これをキッカケに新しく作る(施設が核になって)

⑧

家族会副代表

当事者家族の方(希望大使) 54才で退職

包括

女性活動(宜野湾)

認知症カフェの作られたプログラムは居心地が悪い

3回/Wディ、脳トレ、HP4カ月、条件はディに行く

働きたい、CMと一緒に役所

B型就労→コロナ「ひとりの人」として扱おうま市在

⑨

感じたこと

話したいこと

ご家族の介護(義父)

看取りまでの経験と自身のこととして考えさせられている

自分の意思表示ができなくなった時のために「もしもノート」かこうかな…

自分のトリセツ

若年性認知症の夫を相談にこられたけど、専門ではないからそちらに案内

どんな入口から相談するか、どこにいけばいいのか

なかゆくい会という当事者の方が集っているMCIの方が自分のために「備えている」という方もいた。ピアノカウンセリングが信頼、説得力があるのではないかな。

⑩

「働くこと」

・社会は働き手を求めている。

→企業が理解してくれると変わるのでは障害者雇用制度

人材、サポートが足りない

→助成金もあるのにサポート育成、雇用も必要遊農クラブ→まずは続けることから、就業支援へ

サポート育成+販売ルート+つないでいけたら

・認知症基本法、本人の声を取り入れる

◎コーディネートする人がもっと増えたら。

・就労支援につなげることが難しい

→事業所の受け入れが難しい

対応の仕方が分からない

→具体的な方法、細かい情報を伝えることで解決できることもある

・専門職として関わっていない方は認知症、老いについての理解が思っている以上に不十分お年寄りと関わる機会が減っている。

(小中学生向けのサポーター養成講座をしても・・・)

→イメージ、想像が出来ない

→直接ふれ合うこと、当事者の声をきくこと

⑪

オーストラリア→自由

その日その人は何したいか?

認知症になるまえに自分の生きたい人生を決めておく

「ダイバーショナルセラピー」

日本で広めている人がいる。DTワーカー

地元の子どもたちに駄菓子を売る

売り子さん→利用者さん

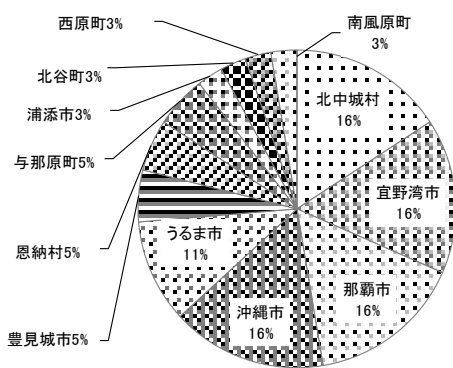
子ども達の学習支援
元々商店を営んでいた
なじみのお客さん
おつりをまちがえる
家族さんの支援
とう芸されていた方
切り絵の先生
得意分野
※見守り体制
病院、お弁当屋さん
安心安全からの卒業
・道迷い
・足腰丈夫
デイサービスに行きたい！！
ダメという心理
世間から責められる
家族←ケアマネ「行かせないで」
周囲の見守り ゆるやかなつながり
オーストラリア 施設コーディネーター
本人の同意 個人の尊厳

認知症まちづくり地域円卓会議 in 北中城・宜野湾 参加者アンケート集計

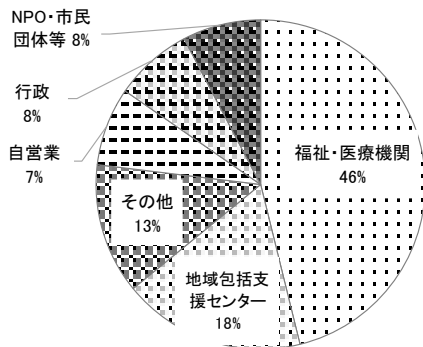
◆概要

- ・日時：2023年9月22日（金）17:30-20:30
- ・場所：宜野湾市社会福祉協議会 2階
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：47名（医療・福祉関係、地域包括支援センター、自営業等）（アンケート回収41名、回収率87%）

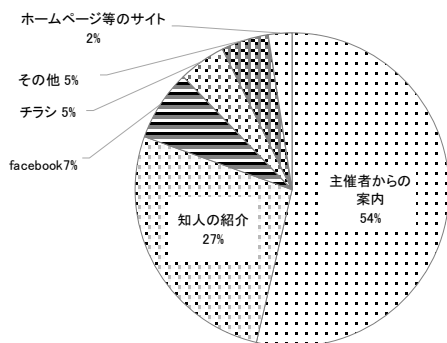
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.6（5点中）

満足度	人数
5. 満足	23名
4. 概ね満足	12名
3. 普通	1名
2. あまり満足していない	0名
1. 不満足	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 講師の方がそれぞれ自分の認知症に関わる仕事への熱意を持ってたずさわっている事が伝わってきた。この場で関係者が刺激を受けながら明日から自分の仕事へ向かう活力になると思う。これからも継続して取組んで欲しい。
- ・ 色々な取り組みを知ることができてよかった。色々な人が関わっていると知れた。認知症は怖くないと思っている自分がいる。この会に参加してやっぱり怖くないと確信がもてた気がした。これから「認知症」が地域力、県力、国力がアップするキーポイントになればいいと思った。ネットワークが少しづつ広がっていると知れたことがよかった。情報収集力って大事。
- ・ どの出演者の方のお話もすばらしかった
- ・ 本日は大変素晴らしい円卓会議に参加できてよかったです。様々な職種の方や専門職の方々の発表がきけてよかったと思います。
- ・ 着席者の方々、グループセッションで一緒にさせて頂いた方々のお話しがバラエティに富んでいて、胸にささる事ばかりでした。もっと「話す事」が普通に日常的にできたら話しやすい社会になると思った。
- ・ 様々な職種や立場の方々から意見を聞いて視点が広がった。

- ・ 色々な意見や思いをきけ地域の問題などが見えてよかった。認知症も同じ人なのでその人を尊重してあげたい。
- ・ 着席者それぞれのお話が深く刺激になりました。山城紀子氏の取材からのおはなし、大変貴重な話をきけて良かったです。つじつま合わせができました。サブセッションでも良い意見交換ができました。
- ・ 論点が明確で話し合える。
多様な考え、意見がきけて参考になる
セッションの時のそれぞれの人とふれることで人間について考えることができる。
- ・ 認知症になっても必要とされる承認欲求から始まり自分らしさをとり戻せるきっかけになるような受け入れ地域を作れると良いと思いました。泰さんの遊農クラブはすばらしい企画だと思っています。田村さんの話も断らない福祉で学んだ精神が存在していると思いました。山城さんの話も今聞いても当事者介護する側はつらかったらうとうるうりました。
- ・ 初めて参加しました。いろんな話しがきけて良かったです。認知症についてもっと学びたいと思えました。ありがとうございました。
- ・ 円卓会議というフォーマット初めて参加しました。参加型のラジオ番組みたいだなと。ほぼ飛び入り参加でしたがものすごく中身のこい地域（沖縄）のいまに触れることができました。ありがとうございました。
- ・ その人自身の意見（意志）を大切だと思ってもできていない（本人ぬきになっている）ことってありえると思えた。それが初めて確認できた。
- ・ ありがとうございました。学んだことが多すぎて一度整理しその人らしい社会づくり後のヒントを得たいと思いました。
- ・ コーディネーターのような存在が必要であるが、本人の自由、尊厳を最善にととのえて欲しいと思いました。働きたい、働きたくないも尊重した上で生きがいや今の健全な生活、暮らして社会の中での役割、存在価値を本人中心で引き出せることが大切に思いました。社協にも期待したいです！！本当に地域で！！
- ・ 様々な立場の方の話や活動をきくことができとてもいい会議でした。また流れや構成も良かったと思います。（→参加者の声もきくことができたため）とても貴重な時間で新たな視点をみつけることができました。ありがとうございました。まずは今回話したことを身の周りの人達と話し合っていきたいと思います。

（4. 概ね満足）

- ・ 各地域での取り組みを知ることができました。ありがとうございました。
- ・ 様々なレベルの「働く」を考えると気付きました。議論するにはすこし時間がたりないと感じました。
- ・ 沖縄の現状（貧困）と高齢者（認知症）のこれからの生き方についてもっと現実的に実現できそうなアイデアを考え続けていきたい。
自分の力で生きていける老後（必要最低限な支援が有る前提）
- ・ 様々な立場の方の意見を聞くことができた。
- ・ 「認知症」「働く」「地域づくり」色々な視点、思いなど気付かせてもらえる素晴らしい時間ありがとうございました。
- ・ もう少し一般の方と話す時間があつた方がよいと思う。聴くグループ、意見交換したグループなど目的別にするなど。
- ・ 司会の方が落ちついていて1人1人のコメントーターの言葉を引き出しているのがすごいと思いました。

- ・ 若年性認知症の方をどう支えていくのか、支えるための情報について、ご家族の相談が増えているため相談員として学びたいと思い参加しました。治療と仕事の両立支援ガイドライン、ハローワークにも使えるものがある。いきがい LABO。30 年前から取材した方の話が聞けたことも胸にひびきました。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

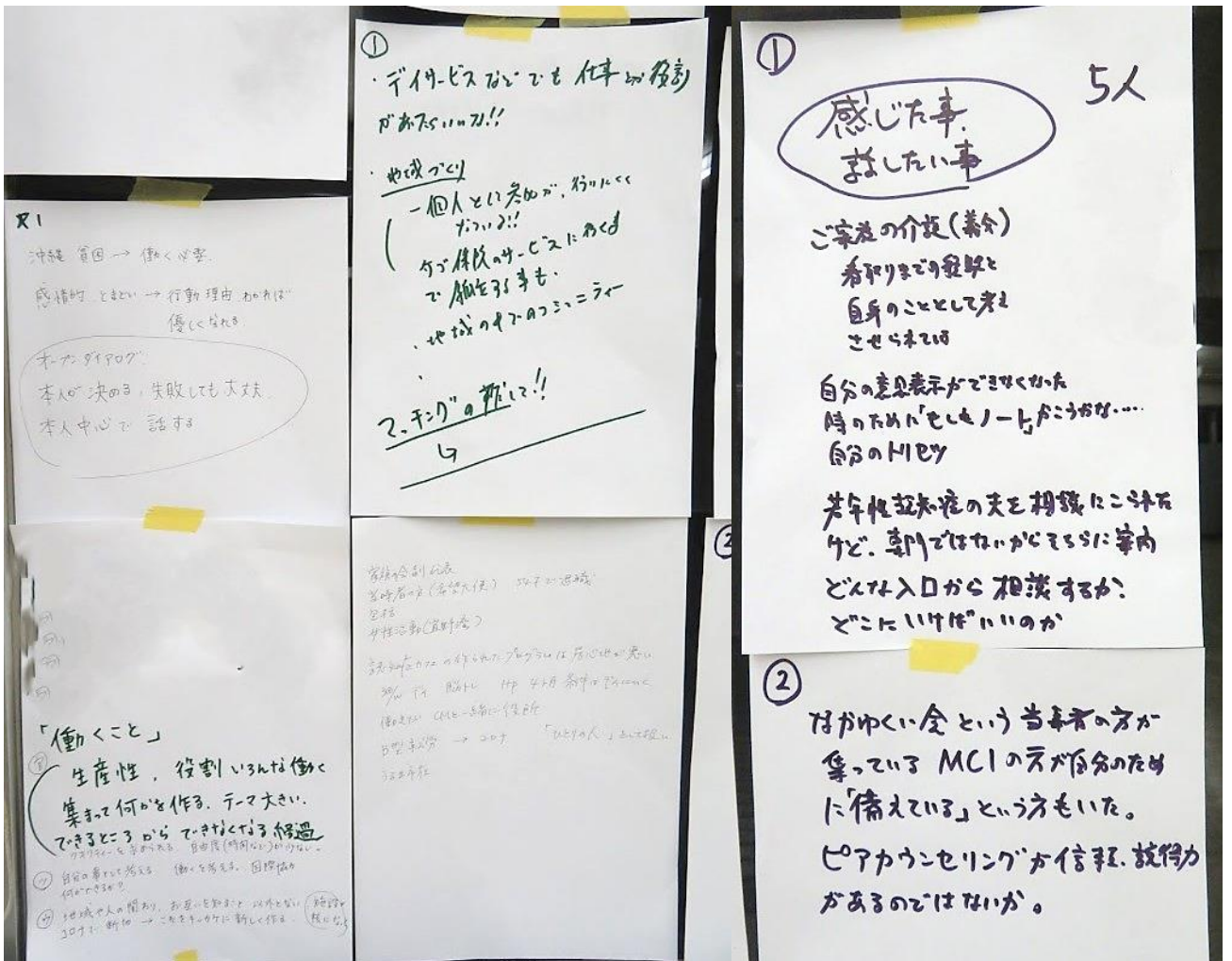
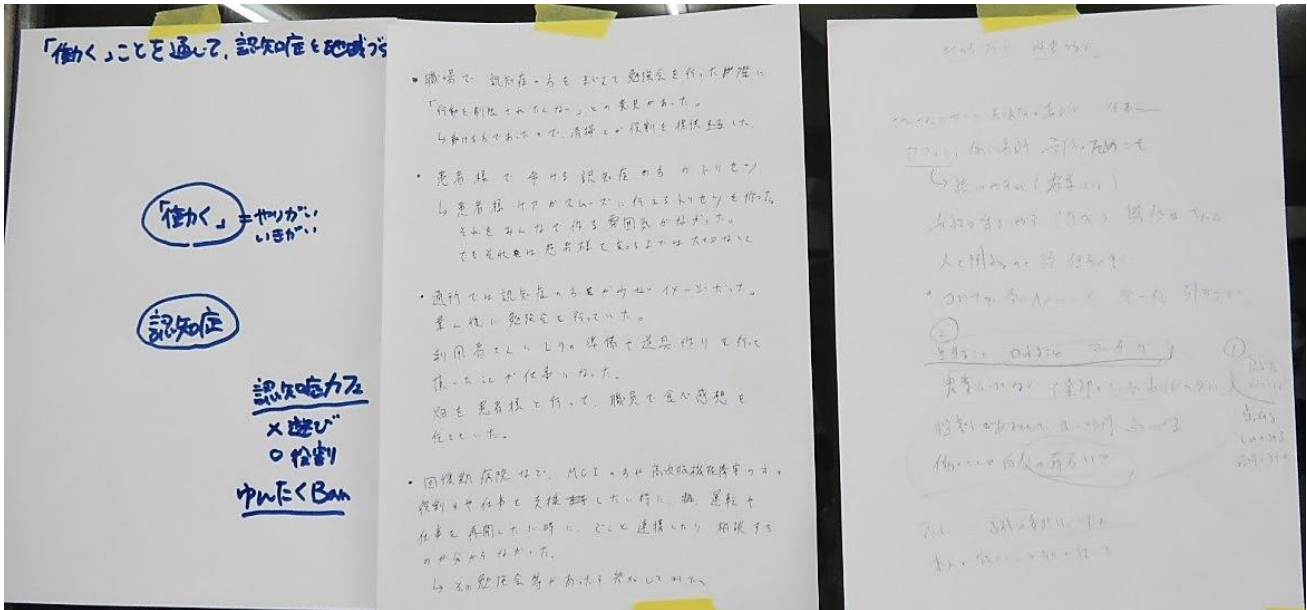
- ・ 「トリセツ」のこと。私も認知症の方の「トリセツ」みたいなものをかいたことがある。でもそれを私 1 人が書いた。それを皆でかけるといいなと思います。そして、その「トリセツ」を渡した先からのフィードバックがほしい。働く認知症の方の「トリセツ」これは、履歴書のようなもの。その人を知る上ではすごく手っとり早い。一緒に働く側としても安心できるものだと思います。認知症の方と働く時、失敗を優しくフォローしあえる体制が必要だと思います。
- ・ 本日の円卓会ぎの発表やグループワークでまずは当事者の方々の希望や思いを聞き役割や就労をすすめていく大切さを再確認できました。
若年性認知症の方 1 5 3 8 人を入れると県民の 26.6 人に 1 人のバイクの数と同じくらい（認知症を他人事から自分事へ）
オーストラリアは D T ワーカー？がいて人生をひとりひとりデザインする方がいる事を知りました。
今も当事者の方がまちやぐわーを経営し間違いがあるが家族は施設入所等考えず本人の意思を尊重している話をきいて感銘を受けました。
- ・ 山城さんがお話ししていた”在宅介護者のつどい”は大切。”作業的存在”というキーワード。作業をとりもどす事=自分らしさ
- ・ その人の言葉を聴いて人生を再デザインする
- ・ 本人中心、本人の気持ちを聞く、「働くこと」「働かされること」はちがう。自分の生き方をデザインできる、尊重される社会。
- ・ 仕事や役割は簡単に奪われてしまう。⇒それを守るため、本人の意思を尊重していくことが必要。作業単位でなくて、作業を通して本人がどのような影響をうけるか、この作業が本人にとってどのようなものか、考えていくことが大事。
個別のニーズにあったサービスがもっとふえていくべき。
地域の困りごとが見えにくくなっている⇒掘り起こしをしていく必要がある
- ・ つながり広がっていくと実感
A&W カフェや認知症の方の商店
人生設計、本当にやりたい事を目標に
- ・ 最後の社協の役割、小規模の離島では実践されてたので正にそのとおりでと思いました！
- ・ 社協のあり方の発見
決めつけずその人の意志をきく
- ・ 遊農クラブ、A&W カフェも地域に持ってかえりたい
- ・ 田村さんの事業についてすごくいいと思った。うちの地域でもできる事業はないか考えた。社協の取組みもすごく良かった。地域の力をあらためて感じました。
- ・ かなり広げた話しになった（当事者性、若年認知症、制度、自分ごとなどの keyword の幅が広い）と感じていたのですが session2 と最後のまとめで、全体が着地した感じがよかったです。
- ・ 認知症にやさしい社会は確（着）実に実現しつつあるのだなと実感しました。これほど頑張るケアワーカーのみなさんもケアが充分に受けれますように。

- ・ 「安心してカミングアウトできる社会」いいですね。
- ・ 多職種からの視点で色々と感じた上でサブセッションがあることがとても有意義でした。気になる視点を持ち帰れることも今後役に立つのでとても有難かったです。
- ・ 同じ作業でも目的が違うこと（生きがい）
人生をデザインすること
役割（仕事）を持つことの大切さが自分らしさにつながる事
- ・ 作業—その人らしさ
- ・ 仕事や役割はすぐ奪われる。→それは本人らしさ（本人の尊厳）が奪われること。
人の役に立つこと、何かに携われること。人に感謝されることで生かされる。
- ・ 人生をデザインする
- ・ ①一般の方は認知症の方に出会わない→サポートができない→学校のカリキュラムに施設実習など学びを提供すべきではないか
②企業の受け皿を増やす必要がある。アドバイザーなど重層的な支援体制をつくる必要がある。
- ・ 認知症になる前に自分の老後（生きたい未来）を他者に見える形で意思表示しておく。→それが当たり前になる社会ってどんな社会？みんなが未来を思いえがける人に育つ社会（教育）
- ・ 遊農は認知症の方が身体を動かし、自分の作った野菜で本人も喜び、孫に自信をもってあげている、そして朝ごはんを食べて元気になっている話はとても素敵ですね。安次富麻紀さんの若年性認知症のお話は現状を知り衝撃的でしたが手厚い支援で感動しました。初めて円卓会議に参加して熱いお話にびっくりしました。
- ・ 出来なくなることが増えていくが、しかし出来ることを見つける探すことは重要「遊農くらぶ」。
診断はされ認知症が発見はできても利用できるサービス、制度等がほぼない現状、単発、単純でも本人の出来ることをうばってしまわないよう、作業などできることを拒否してしまわない。認知症は他人事ではなく自分ごととして考えなければならぬ程身近である。生活する環境全体から住みやすくなるよう働ける見守る協力し合える取組
作業や日常生活の中で失敗しても笑える環境、年齢を重ねると失敗したときの心の回復力も低下してしまうのでエネルギーもたくさん必要である。こちらで考えたプログラムどおりに進まないこともある。外出する権利と施設と家族の責任について。A&W、地域の企業も取組みとても楽しそうで幸せな気持ちになりました。実際アンケートをとっても認知症として統計されていない人がいる。
認知症の方、取扱い説明書という言葉以外で表現はありますか？物、ではないので前向きな応援になるような言葉だと不安も減っていくように感じました。
- ・ 田村浩介さんのお話がとても印象に残りました。人は作業する生き物、そしてその作業はすぐに奪われるものという言葉が印象に残りました。最後の山城さんの話はさすが！！聞きごたえがありました。山城さんの話をもっと聞きたいと思いました。他のみなさんごめんなさい。会場が寒かったのと長すぎて途中で疲れました。会議の意義はわかりますがコメンテーター多すぎませんか？集中力がもちませんよー。

(写真) 会場の様子



<サブセッション 記録用紙>



①

「働くこと」

- ・社会は働かざるを得ない。
- 企業が理解してくれたい。
- 障害者=働かざるを得ない → 社会全体がサポートする必要がある。
- 「遊園地」 → 遊園地は、
- 遊ぶだけでなく、
- サポート体制 + 観光施設 + ... が必要。
- ・認知症予防法 - 本人の戸を叩く。
- ② コーピングが人にも必要。

②

- ・大学受験はつらいことが多い。
- 卒業後の進路がわからない。
- 具体的な方法、目的、情報を知ることが解決につながる。
- ・再入学と関わり方。
- ・認知症 - 認知症の予防法が不明。
- ・認知症と関係が深くなる。
- ・（小児科のサポート体制が重要）
- イー・エー - 想像が広がる。
- 通称、ふたつは、当事者の声を聞く。

「働かせられるのは苦痛でいい」

「自分の意見をきいてほしい」

①

オーストラリア → 自由
 その国の人はいくらですか？
 認知症に悩む人
 個人の生活の質を高める
 ディメンタリゼーション
 日本とオーストラリアの違い
 精神科
 ↓
 ↓

②

- （ 地元の子どものために 職業訓練 施設を創設する。 ）
- （ 元々商店を営んでいた。 ）
- （ 認知症の予防法 認知症の予防法 家族への支援 ）
- （ 認知症の予防法 認知症の予防法 認知症の予防法 ）

③

安心・安全のための卒業
 ・道迷い 認知症
 ・足腰が弱 心理
 ・認知症の予防法 世間の認知症
 家族 ← ケアマネージャー
 周囲の認知症
 オーストラリア 施設と認知症
 本人の同意 個人の権利